

4. 派遣職員からの報告

(1) 緊急消防援助隊【消防局 P1】

令和6年1月1日（月）

16時10分 地震発生（石川県能登地方：震度7）

19時00分 消防庁長官から大阪府隊に出動指示

19時53分 出場指令（堺市消防局）

派遣先	消防局	派遣期間			派遣人数
輪島市	第1次派遣	1 / 1	～	1 / 6	車両6台、27人
	第2次派遣	1 / 5	～	1 / 9	25人
	第3次派遣	1 / 8	～	1 / 13	車両2台、25人
	第4次派遣	1 / 12	～	1 / 17	25人
	第5次派遣	1 / 16	～	1 / 21	25人
	第6次派遣	1 / 20	～	1 / 25	21人
	第7次派遣	1 / 24	～	1 / 29	17人
	第8次派遣	1 / 28	～	2 / 2	12人
	第9次派遣	2 / 1	～	2 / 2	9人

消防車両 3 台、職員 9 名（延べ8台、186名） ※令和6年2月2日現在

(1) 緊急消防援助隊【消防局 P2】

事案対応件数

緊急消防援助隊大阪府隊活動状況
(令和6年2月2日 8時00分現在)

救出人員 13人

火災	3件
救助	137件
救護	33件
救急	202件

※救護は、火災・救助以外の消防隊活動

現在の活動状況

(令和6年2月2日現在)

- 行方不明者1名の救助活動を継続して実施 (輪島市市ノ瀬町)
- 地元消防活動の支援を実施 (輪島市内)

(1) 緊急消防援助隊【消防局 P3】



(1) 緊急消防援助隊【消防局 P4】



(1) 緊急消防援助隊【消防局 P5】



(2) 避難所運営支援【全局 P1】

※第1クール（1/10～15）時点

【避難所概要】

名称	避難者数	電気	上下水道	通信状況	輪島市職員
大屋小学校	約250名	○	×	○	1～3名
三井公民館	約60名	△（発電車）	×	○（不安定）	1～2名

※車中泊や地域会館など、避難所の周辺に「避難所外避難者」多数あり

【業務内容】

業務	①避難所運営	②支援物資管理	③環境整備	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しの配膳 ・避難者名簿整理 ・深夜避難者対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易シャワー運用 ・施設巡回 ・来訪者対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬入出、整頓対応 ・不足品の聞き取り、物資支援の要求 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策 ・雪かき ・避難所清掃



(2) 避難所運営支援【全局 P2】

※第1クール（1/10～15）時点

状況	詳細
①インフラ 未復旧	<ul style="list-style-type: none">・道路は損壊し、使える道は渋滞（降雪地帯につき、陥没等が確認できないことも）・上下水も使えず、仮設トイレの設置までは、「トイレの揉め事ばかり」 
②余力なし	<ul style="list-style-type: none">・避難所内の一部は震災発生時のまま・支援物資は山積みで整理整頓されず・避難所内は土足で、感染症対策は行き届かず    
③運営負荷大	<ul style="list-style-type: none">・避難所運営を行う一部の避難者や、輪島市職員への過度の負担（昼夜問わず対応が必要であり、自主運営組織の場合は特に顕著）

(2) 避難所運営支援【全局 P3】

- ・避難所内にはガラスの破片やモノが散乱していた
→被害を最小限に抑えるためにも、日ごろの地震対策の徹底が必要
- ・避難者からは、発災3日目までは、地元住民が水や食料を持ち寄ったとの話があった
→行政等の支援が行き届くまで、自助・共助に頼らざるを得ないことを痛感



・日頃の備えの大切さについて、市民の皆様への啓発

- ・上下水が絶たれ、その復旧には相当に時間がかかる状態だった
→飲料水に加え、仮設トイレ・シャワー等衛生環境を維持する設備が早期に必要
- ・現地で立ち上げられていた自主運営組織は事前に準備されていたものではなく、避難者が自主的に手を挙げ運営していた
→組織員（特に組織長）に過度の負担がかかっており、早期の支援が必要



- ・支援（モノ、人）をいかに迅速に被災地に届けるかの想定
- ・過酷な状況においても万全の支援を行うための準備

(3) 健康管理・支援業務【健康福祉局・子ども青少年局・区役所 P1】

派遣先	能登町
派遣人数	4人活動中 (派遣者数合計52人 1月30日現在)
期間	1月6日～2月29日
活動目的	災害関連死・健康被害の予防



避難所での健康教育



避難所への巡回



町役場でのオリエンテーション

(3) 健康管理・支援業務【健康福祉局・子ども青少年局・区役所 P2】

支援開始当初の活動

発災約3週間経過後からの活動

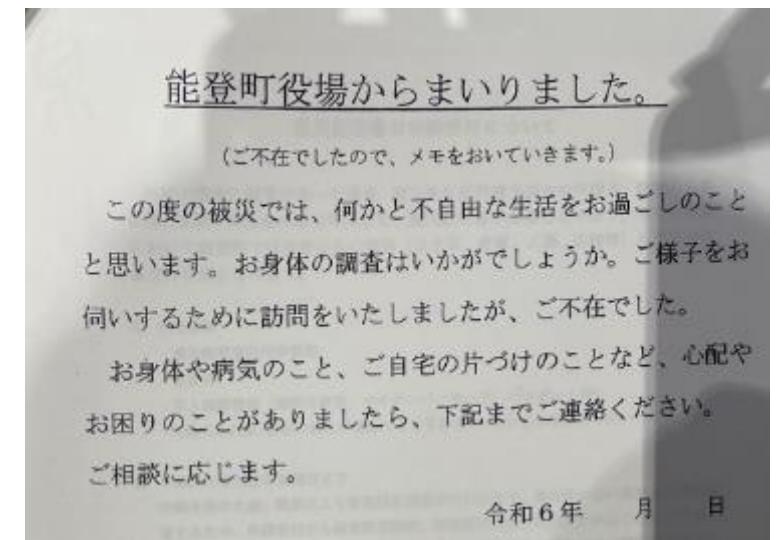
巡回先	避難所 (小中学校、公民館、集会所等)	避難所 在宅被災者
活動目標	避難所の状況把握 医療的ニーズの把握	避難所生活者、在宅被災者の医療的ニーズの把握や健康被害予防のための保健指導
活動内容	避難者の健康観察・体調不良者の把握 感染予防策の助言・内服薬の不足の有無の把握	活動開始時からの避難所への支援の継続、在宅被災者の医療及び福祉ニーズの把握、1.5次避難所の説明
避難所数・避難者数 (堺市担当 能都地区)	1月9日時点 避難所 32箇所 1183人	1月26日時点 避難所 19箇所 464人



避難所でのラジオ体操



在宅被災者への訪問



訪問時に使用する手紙

課題と役割

健康課題の変遷

メンタルヘルスや感染症対策等
フェーズに応じた健康課題に対応する

継続した支援

把握したニーズや課題を次の派遣職員や現地の
職員（DHEATや町職員）に共有し、解決に結びつける



自主避難所への訪問



避難所での健康観察



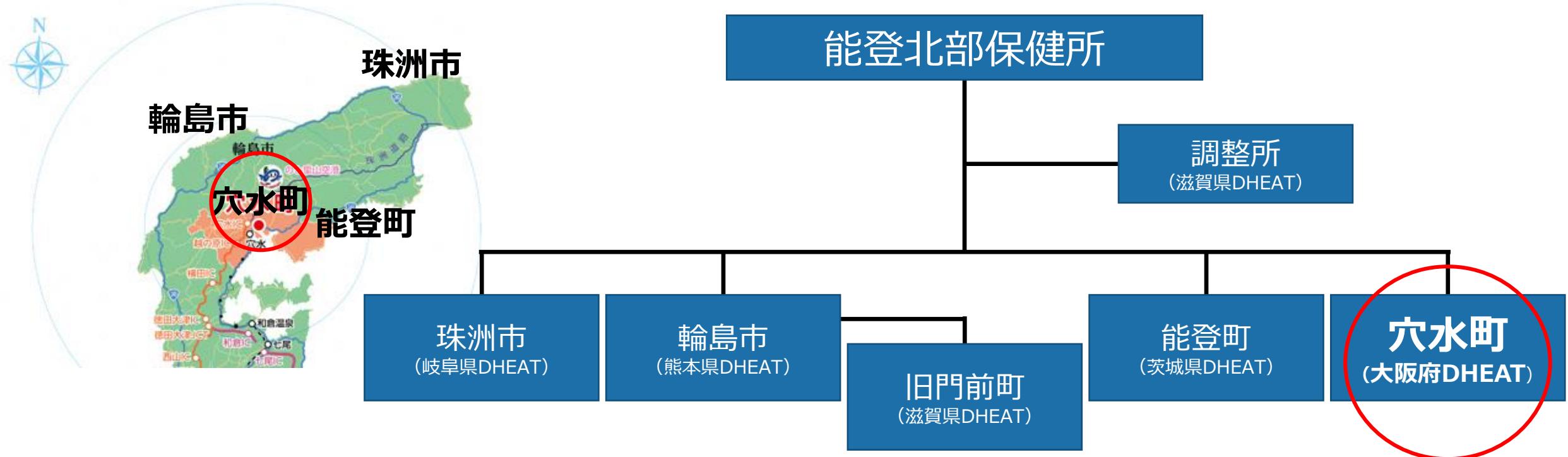
仕切りが設置された避難所

(4) DHEAT【健康福祉局 P4】

派遣先	穴水町
派遣人数	1人（大阪府チーム5人体制のうち）
期間	1月12日～1月18日
活動体制	能登北部保健所管内の2市2町にて、5つのDHEAT班がそれぞれの市町を支援し、連携しながら活動

能登北部保健所管内

DHEATの活動体制（活動時点）



DHEAT派遣（穴水町）

活動目標

被災自治体の指揮調整機能の支援（マネジメント支援）
にて、防ぎ得た死と二次健康被害を最小化すること

活動内容

- ・保健医療福祉本部の応援
- ・地域からのニーズを受けて、支援の企画立案
- ・地域医療再開のための働きかけ
- ・要介護者・要配慮者の状況把握



被災情報等の収集・分析評価



歯科診療の課題集約方法を検討



要配慮者リストのエリア分け

DHEAT活動から見えた課題

医療提供体制

災害時医療救護マニュアルの柔軟な運用

保健予防活動

DHEAT研修による継続的な人材育成

生活衛生環境の確保
(生活環境上の健康リスク軽減)

防災を念頭においた地域診断



○能登半島地震

被災建築物応急危険度判定業務

派遣期間：令和6年1月13日（土）から1月17日（水）
（1月13日（土）及び1月17日（水）は移動日）
派遣先：輪島市 派遣職員：2名

(5) 被災建築物応急危険度判定支援【建築都市局 P2】

危険 (赤)
75件



要注意 (黄)
23件

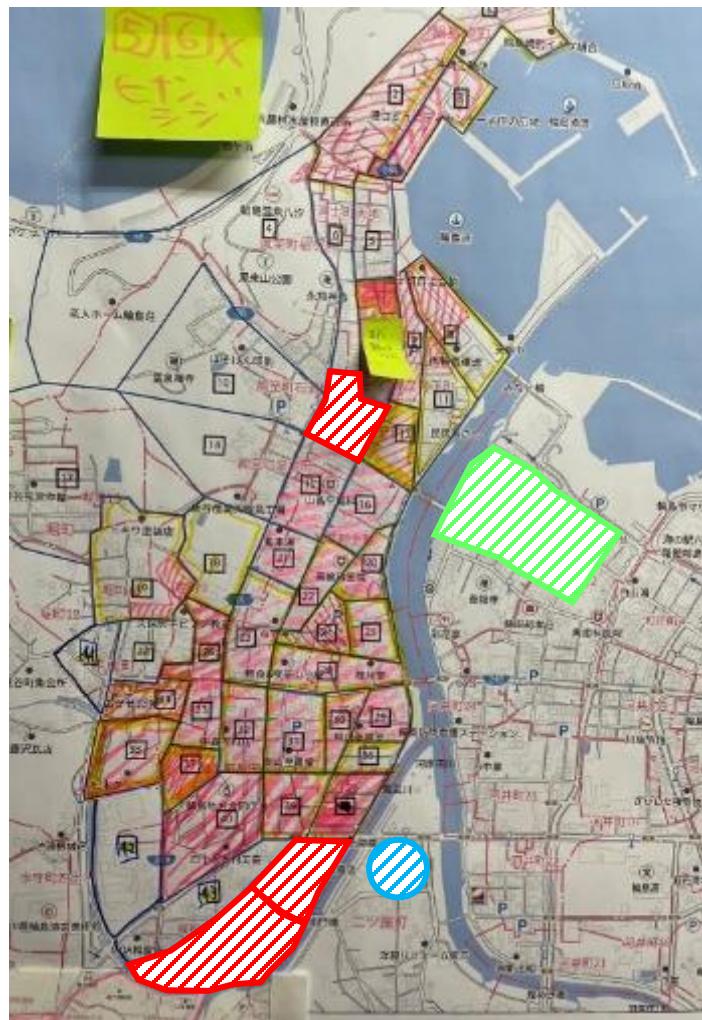


調査済 (緑)
10件



(5) 被災建築物応急危険度判定支援【建築都市局 P3】

班別に割り振られた
判定区域



-  堺市判定区域
-  輪島市役所
-  朝市

本部および
宿泊所の様子



全国から職員を派遣

タブレット判定による
作業の効率化



輪島市独自のシステム

派遣状況

○1月3日から派遣

- ・指揮車 1台 給水車 2台 (現在7名体制)
- ・現地で7日間活動し交代
- ・現在、第5次隊が活動中 (延べ31名)

活動内容

○給水車による応急給水活動 (七尾市から穴水町へ変更)

- ・福祉施設の受水槽への給水
- ・避難所等への応急給水



福祉施設への応急給水



避難所等への応急給水

○ 応急給水活動のリーダー業務を神戸市から引き継ぐ

- ・2月2日から、応急給水活動に加え、穴水町で活動している応急給水支援隊（11自治体等、給水車14台）の総合調整を行うリーダー業務を担う
- ・穴水町役場や自衛隊等と調整のうえ、ニーズに応じた給水車の差配

○ 復旧状況

穴水町の水道管路の復旧が進んでおり、2月末の復旧をめざしている（当初3月末の目標）



応急給水支援の全体会議



自衛隊風呂への給水

派遣状況

- **1月10日から派遣**
 - ・車両2台（4名体制）
 - ・現地で7日間活動し交代
 - ・現在、第4陣が活動中（延べ16名）

活動内容

- **下水道管路の1次調査**
（白山市・能登町・輪島市）
- **下水道管路の2次調査**
（穴水町）



能登町役場の応急トイレ



液状化で隆起したマンホール

○ 関西4都市で連携し、能登町・穴水町を中心に調査中

- ・1次調査・・・職員4人1組でマンホールを開けて滞水状況を調査（完了）
- ・2次調査・・・調査会社と職員2人で下水道管路内部の状況を管内カメラで確認

○ 復旧状況

- ・穴水町の水道が一部復旧しており、下水道管路内部にたまった汚水をバキューム車で吸い出して応急対応をしながら2次調査を行っている
- ・下水道の復旧の見込みは立っていない



(8) リエゾン【危機管理室 P1】

	派遣期間	人数	主な業務内容
第1次	R6.1.5~1.8	2人	【調査業務】 ・輪島市内（担当避難所含む）の被害状況調査
第2次	R6.1.6~1.11	2人	
第3次	R6.1.9~1.13	2人	【調整業務（会議、リエゾン打合せ等）】 ・リエゾン会議（朝・夕） ・本庁とのWeb会議 ・輪島市災害対策本部会議 ・大阪府、大阪市との連絡調整、情報共有 ・避難所における必要物資調達（国、三重県等） 【避難所対応職員支援業務】 ・避難所対応職員の宿泊場所確保、環境改善（民宿さかした） ・職員の移動手段の調整（大阪市）
	R6.1.9~1.15	2人	
第4次	R6.1.13~1.19	2人	
第5次	R6.1.18~1.23	2人	
第6次	R6.1.22~1.27	2人	
第7次	R6.1.26~1.31	2人	
第8次	R6.1.30~2.4	2人	
第9次	R6.2.3~2.8	2人	
延べ派遣人数		16人	

※第12次派遣（2/15～）より消防局職員1人の協力派遣予定

(8) リエゾン【危機管理室 P2】



リエゾン活動拠点（輪島市役所内）



リエゾン活動拠点（就寝時）



輪島市災害対策本部会議



物資拠点（文化会館）

(8) リエゾン【危機管理室 P3】



河川閉塞箇所確認



避難者状況聞き取り



避難者状況聞き取り



スターリンク設置確認

(8) リエゾン【危機管理室P4】

**発災
当初**

被災職員が多く、出勤可能職員も避難所運営業務のため、被災市災害対策業務が進まない。

速やかな職員の安否確認、他都市受援体制の移行が必要

**約1
週間**

物資拠点は多くの物資が届き飽和状態。避難所は備蓄食料が山積みだが、衛生物品、パーティション等のニーズの高い物資がない。

避難所ニーズの的確な把握、配送システムの構築が必要

**約1
か月**

避難所の集約・閉鎖の検討が必要なフェーズ。避難所からは閉鎖等に反対の声も多い。市外ボランティア受付も始まっていない。

**集約・閉鎖業務の計画策定と避難者への丁寧な説明が必要
社会福祉協議会と連携しボランティア受付体制を整備**

被災市と総括支援自治体を中心に、関係団体と連携・情報共有を行い、各フェーズに応じた課題に柔軟に対応することが重要